

担い手育成プロジェクト「おおさき生きものクラブ」の成果

大崎市産業経済部農政企画課

世界農業遺産未来戦略室

三宅 源行

1. おおさき生きものクラブとは

大崎市は、栗駒国立公園やラムサール条約湿地、そして世界農業遺産に認定された大崎耕土の広大な水田や小川、ため池などの豊かな自然環境に恵まれています。

豊かで恵まれた森林や田んぼ等の自然環境、子どもたちの身近にいる生きものたちとの「ふれあい」と「気づき」をつうじて、本市の目指す「自然と共生した持続可能な地域社会づくり」を担っていただく子どもたちの育成を目的に平成25年（2013年）に市内在住の小中学生を対象とした「おおさき生きものクラブ」を設立しました。

現在、市内の環境保全団体と協力のもと、自然観察プログラムを実施しています。

2. おおさき生きものクラブの目標

【短期目標】

- 自然に関心のある子どもたちに自然に関する情報を提供する。
- 子どもたちに地域の自然環境について関心を持たせる。
- 学習・体験・交流に基づいた意見を言える子どもたちを育成する。

【長期目標】

- 自然環境に関わる分野（企業、NPO 団体、教育機関、農林水産業等）で活躍できる人材を大崎市から輩出する。
- 環境保全団体の次世代を担う若者を育成する。
- 自然環境に対し、次世代を担う子どもたちを通じて、幅広い世代の多くの市民が関心を持つ機会を提供する。

3. 実施内容

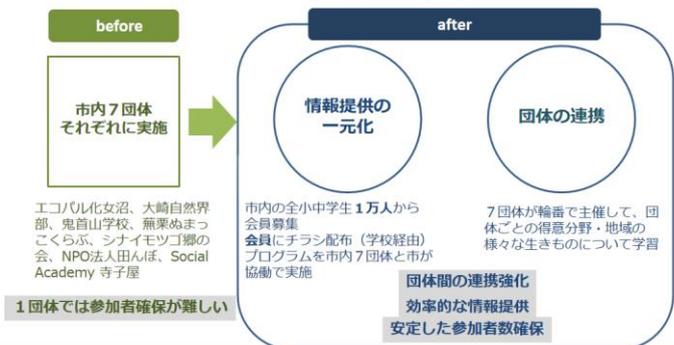
- 個別の団体が実施してきた環境教育プログラム等の「情報提供の一元化」
→市内の全小・中学生（約1万人）へ毎年、会員募集のチラシを配布
- 市と市内の環境保全団体7団体との協働で、各種プログラムを立案・実施

4. おおさき生きものクラブを支える7団体

活動するフィールドが異なり、また、得意とする生物群も異なる環境保全団体7団体と協力することで、市内の様々な地域で、様々な生きものを対象とした自然観察プログラムを通年で実施することが可能となりました。

おおさき生きものクラブ

対象：大崎市在住の小・中学生
内容：生きものが好きな子供たちの学外活動。9回/年程度



「自然と共生した持続可能な地域社会づくり」のために

市内の様々な場所で自然観察を実施



5. 設立10周年を迎えたおおさき生きものクラブ

令和5年（2023年）現在、会員数は203人。これまでの10年間で約80回の自然観察プログラム、延べ3500人以上が参加しています。

令和5年8月におおさき生きものクラブ10周年記念フォーラムを開催し、そのパネルディスカッションでは、生きものクラブを卒業した大学生、高校生5人が登壇しました。

おおさき生きものクラブの活動を振り返り「国内外との交流で環境保全を考えるきっかけとなった」「里山の管理のプログラムで、樹木が使われないことで、生物多様性が損なわれていることを知ったことがきっかけで、大工になるという、将来を描くことができた」「いつか大崎市に戻り、活動を支える側として携わりたい」などが語られました。コーディネーターを務めたラムサールセンターフェローの中村玲子氏からは「地域全体で中長期的に取り組む優れた環境教育で、世界に誇れる」といった評価をいただきました。